



伊藤 容子議員

**Q** 個別支援が必要な児童生徒が増加する中、教職員は充足しているのか

**A** 財源も限りがあり、他施策との優先度を考えながら教職員配置を要求している

**Q** 令和7年12月定例会の答弁で、令和7年度小学校入学生の約14%が個別支援を開始している状況が説明された。学校現場では個別支援が必要な児童生徒が増加する中、さらなる教職員の配置はあるのか。

**A** 市費の他、県費で教職員が配置され、学校全体で指導・支援に努めている。特別支援教育支援員について令和7年度は通年雇用41名、後期雇用8名の計49名を市内各小中学校に配置し、1校に1名～3名を割り当てている。令和8年度は、通年雇用を3名増員し、後期雇用と合わせて、計52名を配置する予定。

**Q** 教職員は充足しているのか。

**A** 財源も限りがあり、特別支援教育のみならず他の施策との優先度を考えながら、特別支援に関わる教職員の配置についても要求している。今後、学校全体で特別支援が必要な児童の支援にあたる。



その他の質問

- ・休日・夜間のオンライン診察について
- ・自治会・高齢者への支援について
- ・不登校児童生徒支援について



▲令和7年度「教師不足」に関する実態調査（文部科学省）



疋田 菜穂子議員

**Q** 緊急避妊薬へのアクセス支援は

**A** 既存の相談窓口の認知を広め、緊急避妊薬へのアクセス向上に努める

**Q** 緊急避妊薬は必要な時に相談窓口へのアクセスが分かり易いことが大切だが、学校等でアクセスを周知する方法として名刺サイズのカードの配布やトイレの個室にQRコードを掲示するなどの方法はどうか。

**A** カード形式による情報提供や、QRコードを用いた周知は効果的であると認識しているので、実現に向けて教育委員会と協議を行っていききたい。

**Q** 夜間・休日における相談窓口の状況は。

**A** 夜間や休日の相談には、国や県が設置する窓口があり、滋賀県の「にんしんSOS滋賀」ではLINEやメールで相談を受け付け、「性暴力被害者総合ケアワンストップびわ湖SATOCO」も24時間対応されている。本市としては、相談者が時間帯に関わらず適切な相談窓口へアクセスできるよう、周知を図っていききたい。



その他の質問

- ・市街化調整区域から市街化区域に編入される基準は
- ・地区計画を活用した地域主体のまちづくりについて



▲妊娠相談窓口「にんしんSOS滋賀」



戸崎 克司議員

**Q** 開国記念館周辺のカワウ対策は

**A** 現時点での対策は厳しいものの、  
有効な対策を研究し検討していく



#### その他の質問

- ・観光部門とスポーツ部門の総合的戦略の必要性は
- ・彦根城および周辺の観光と彦根総合スポーツ公園との連携は

**Q** 特別史跡彦根城内の樹木剪定による効果は。

**A** カワウ、シラサギが繁殖期に確認される個体数が樹木剪定の回数を重ねるごとに、生息数が一定数減少傾向にあり、抑制効果があったものと認識している。

**Q** 今後の彦根城内のカワウ、シラサギの対策は。

**A** 今後も生息状況を注視しながら、巣の撤去および巣周辺の樹木の剪定を継続的に実施するとともに、より効果的な対策について先進事例も参考にしながら、研究を進め適切な管理に努めていく。

**Q** 国、滋賀県とのカワウ対策の連携は。

**A** 広域を移動するカワウの対策は、国および滋賀県の方針との整合を図りつつ、滋賀県を中心に近隣市町や近隣府県との情報共有や連携を密に対応していく。



▲カワウの糞被害によって、白くなる瓦屋根と石垣（開国記念館周辺）



北川 元気議員

**Q** 政党機関紙の庁舎内勧誘行為に関する実態調査は

**A** 「心理的圧力を感じた」と  
回答した職員も一定数いる



#### その他の質問

- ・職員を守る条例について
- ・民主主義の根幹を守る選挙制度について
- ・田島市長の法令遵守意識と公選法違反の疑念について

**Q** 匿名での実態調査の進捗状況は。

**A** 庁内グループウェアを活用し、職員アンケートを実施した。結果は、現在集計中だが、過去5年間に勧誘を受けた経験があると回答した職員は一定数おり、「心理的圧力を感じた」と回答した職員も一定数いる。

**Q** 市長の見解は。

**A** この結果は、本市の執務環境の実態を示していると認識しており、庁舎内勧誘行為が職員に心理的負担を与え、本来の公務に集中すべき環境を阻害しているのであれば、庁舎管理規則の趣旨に照らして対応すべき課題と考える。

**Q** 今後の具体的な対策は。

**A** 勧誘行為は控えていただき、この意思表示により今後はなくなるものとする。



野村 博雄議員

**Q** 市民満足度向上への取組は、  
しっかり推進できているか

**A** 見直しと改善を行い、より一層  
市民に寄り添った対応に努める



その他の質問

- ・読書機会充実への取組について
- ・小中学校での歯科保健への取組の推進について
- ・幼児教育・保育への取組について

**Q** 市民満足度（CS）向上への取組は。

**A** あいさつの徹底や分かりやすい説明、丁寧な対応など「彦根市CS向上取組10箇条」を定め、また新規採用職員には接遇研修を実施している。今後も職員の意識向上を図り、より一層質の高い行政サービスの提供に努める。

**Q** 市民に寄り添った窓口対応は出来ているか。

**A** 市民の皆様が不安や困り事を抱えて来庁される事も念頭に置き、丁寧に話を伺う姿勢を基本としている。今後も市民の皆様の声を真摯に受け止め、継続的な見直しと改善を行い、より一層寄り添った窓口対応に努める。

**Q** 市民に寄り添った電話対応は出来ているか。

**A** 迅速な応答や所属・氏名の明示をし、丁寧かつ的確な説明と傾聴を基本として、安心して相談いただける電話対応を徹底する。



森田 充議員

**Q** 中長期財政の見通しは

**A** 令和11年度に財政調整基金（家庭でいう  
「貯金」）が枯渇すると見込んでいる



その他の質問

- ・議案第13号 条例案の提出による心理的安全性は
- ・ふるさと納税で頂いた寄附金の使用用途は

**Q** 中長期財政の持続可能性について市の見解は。

**A** 当初予算で財政調整基金を取り崩して収支を維持しているため歳入不足が深刻化している。その結果、既存事業の削減や新たな自主財源の確保が必要となり災害対応など突発的な財政支出への対応が難しくなる見通し。

**Q** 市政運営、行財政改革のキーマンは。

**A** 持続可能な行財政運営に向けて職員一人ひとりが危機意識を共有し、前例にとらわれず主体的に改革を進めることが重要。市民との対話を重ねながら市長として市民サービスの質を守りつつ持続可能な財政運営と改革に先頭で取り組んでいく。

**Q** 難局を乗り越えるには職員と市長の信頼関係が最も重要では。

**A** 市長と職員一人ひとりが目標を共有し、相互の信頼関係を基盤として着実に改革を進めていくことが重要であると認識している。



▲持続可能な行財政運営